

令和5年第6回定例会一般質問通告事項

12 月 6 日	檀上政樹議員（市民連合）	質問方式：一括質問方式
	<p>1 人口減少時代の地域づくりに支援を</p> <p>(1) 誰もが安心して暮らせる社会・まちを作っていくためにも、現在民間が行っているサービスを市も支援し、他の地域へも広がっていくよう努めることが望ましいと考えるがいかがか</p> <p>(2) 市長はマニフェストの中で、エリアごとの個性を活かしたまちを構築するという項目で、浦崎町においては、「未来図」を共に描き、「地域づくり」のモデルとして推進します。」と掲げておられます。現時点での考えをお聞かせ下さい</p> <p>2 町内循環バスの実現を</p> <p>(1) 御調町において10月から高齢者の方の外出の機会を増やす目的で、現在の予約乗合タクシーの運行を改善した実証実験が始まっています。実験開始から2か月経過し残りひと月となりましたが、現在の利用状況はいかでしょうか。この実験で見つかった新たな課題があれば教えてください</p> <p>(2) 本市のように土地の狭い地域では、大型バスよりも小回りの利く10人乗り程度のコミュニティバスの方が運行しやすいと考えます。これを必要な所に配置して運行を社会福祉協議会などに委託してはいかがでしょう。市の見解をお聞かせください</p> <p>3 カンキツ新品種「瑞季」を尾道の新たな特産物に</p> <p>(1) 新品種「瑞季」を普及していくため苗木購入への助成を求めるとともに、栽培技術の指導、ひいては尾道市の農業をさらに発展させるため、専門の指導員（正規または非正規として）を新たに配置してはどうでしょうか。一次産業である農業の普及・発展のためには現場で継続して指導する人が欠かせません。県やJAの指導員だけでは担当地域が広く、賄いきれません。広島県果実連盟には技術員がおられ、OBもいます。JAと連携して普及指導をお願いしてもよいと考えますがいかがでしょうか。市の見解をお聞かせ下さい</p>	